

情報公開ではなく情報配達を -メジャーリーグに参戦しよう！-**サッカリンNa**

阿蘇の俵山交流館「萌の里」は、頑張っている物産館の一つです。週末ともなれば、熊本市などからのドライブ観光客が大勢おしかけて、野菜や農産加工品が飛ぶように売られています。熊本市中心部の商業は、これを取り囲むロードサイド型の大型ショッピングセンターだけではなく、このような物産館とも競争しているわけですから、苦戦するはずですよ。

「萌の里」の商品の中でも、特に漬物は人気があります。特定の生産者の商品に、固定のファンがついています。タクアン漬けは、瑞々しくて甘味があって美味しいです。黄色い色は、ウコンを着色料に使っています。甘味の正体は、サッカリンNaです。サッカリンと言えば、私たちが子どもの頃、ガンの原因物質と言われて大問題になったのですが、ネットで調べてみたら、あれと同じものようです。最近復活してきたのは、発ガン性はないという結論が出たからだそうです。以前の騒ぎの原因は、サッカリンに含まれていた不純物が悪さをしたからだそうです（本当かしら？）。しかし、ある年代以上の人には悪名高い物質なので、サッカリンが華々しく復活することはなさそうです。サッカリンは怖いけど、たまに試食品のタクアンを食べます。美味しいです。それを女房に見つかり、かなり叱られます。

消費者はウソを含んだものを口にしたくない

復活したと言えば、2月11日、一年ぶりに吉野家の牛丼が1日限定で復活しました。私は結局食べませんでした。全国的にすごいことになって、限定商法はイケると実感しました。

時を同じくして、アメリカ産牛肉の輸入が再開されそうだというニュースが流れました。テレビや新聞の報道によると、専門家による検討の結果、「肉質による目視の判断で月齢20ヶ月以下の牛であると見極めるアメリカの方法は有効である」という結論になったようです（本当かしら？）。

この発表内容と報道内容には、私たち消費者が満足するに十分なものではありません。不審な臭いがプンプンします。通常、私たちは臭うものを口にしません。しかし、困ったことに、こうした情報から発する不審臭は、時間の経過とともに薄く・感じなくなってしまう。

臭いは元を断たねばなりません。情報発信源の問題です。テレビも新聞も、聞いたことしか伝えません。情報発信源が不親切であるなら、テレビや新聞は、私たちが判断するのに必要な材料を独自取材でプラスして、丁寧に解説付きで伝えるべきです。丁寧さが足りません。

偽装表示問題で有名企業が潰れてしまうのは、消費者にウソを食べさせ報いだと思います。口にするものにウソがあることを私たちは嫌います。狂牛病の原因のプリオンは、脳細胞をおかしくしてしまうから大問題です。専門的なことは分からなくても、とにかく「ウソを食われる」ことは生理的に嫌です。「後で、実は・・・」は、もう嫌です。

メジャーリーグに参戦しよう（野球のメジャーではなく、モノサシのmeasure）

米国産牛肉の輸入再開について、消費者団体の代表者がテレビのインタビューに答えていました。曰く「安全と言われても疑問が残る」というようなことでした。・・・こんなことは、子

どもでも言えることです。せっかく、消費者を代表してマイクを向けられたのだから、もうちょっと専門家らしいクールさを見せて欲しいものです。消費者団体の代表や畜産農家の代表がインタビューを受けて言うべきことは、以下のようなことだと思います。

「私が米国産牛肉を買うか買わないかを判断するために欲しい情報は、次のとおりです。農林水産大臣には、一両日中に、NHKの週刊子どもニュース並みの分かりやすい資料を作って、国民に説明する義務があります。」

米国で年間に生産される牛肉の量（頭数と重量 例えば、10万頭で5万トンなど）

上記の内訳として、月齢別の数量

1) 月齢20ヶ月以下の牛の頭数と重量

2) " 21ヶ月以上の "

アメリカから日本に輸出されている牛肉の頭数と量

アメリカから世界中に輸出されている牛肉の頭数と量

牛肉のランクが50ぐらいあるらしいが、ランクと月齢の関係はどうなっているのか。

検査員は、全米で何人いるのか。そして、一人で一日平均何頭分を検査するのか。

米国の検査方法を“統計的に概ね妥当である”と判断したのは、何と言う機関に属する何という名前の先生か。

の先生が妥当であるとした統計データの、サンプル数やサンプリングの方法、説明変数・従属変数、統計処理ソフトは？ 要は、米国の生データを公開して欲しい。

のようなややこしいことではなく、単純に、1万頭について検証した結果、検査員は目視によって見事に100%、月齢20ヶ月以下の牛肉を言い当てたとか、5%は外したとか、そのような割り算の形のデータを示して欲しい。

アメリカでは、まだ、肉骨粉を飼料として与えているのか？

流通の過程で月齢の違う牛の肉が、ごちゃ混ぜになることはないのか？

日本に輸入された牛肉には、月齢（あるいはランク）表示がされるのか？

テレビや新聞の報道内容で、誰が言ったのか分からない、主語の明示されていないものは、信じようがありません。私たちが知りたいのは、結論ではなく、その判断材料の詳細です。

上記の 、 、 の数量を比較すれば、月齢21ヶ月以上の牛の肉が輸入されている可能性を推測することができます。しかし、一般の消費者は、こうした情報を入手できません。行政や企業の情報公開とは、このような判断材料としての情報を、最初から親切丁寧に説明するものでなければ意味がありません。情報は、進んで配達するものです。

船頭山ナビ10号で述べたように、市民は「説明するために計測する」能力を身に付ける必要があります。上記 ~ のようなモノサシをこちらが先に示し、 の方式で説明してくださいとお願いすればよいのです。マスコミには、そのような報道をせよと注文すべきです。そして、それに答えるのが説明責任であり、聞かれる前に丁寧に解説するのが情報公開（配達）です。消費者や畜産農家は、偽装表示をした会社を取り囲んだり、社長室に怒鳴り込んだりするのではなく、こっちから先にモノサシを示して対話を迫る行動をとらねばなりません。それが、メジャーリーグに参戦することです。

要は、10のうち2は怪しいと、確実に分かった上で牛肉を買って食うから自己責任になるわけで、曖昧なものが相手だと、こちらは自己責任を取れません。